

日大闘争年表 (増補完全版)

作成者 大場久昭

一九六八年 (昭四三)

一月二六日

理工学部・小野竹之助教授 (本部教務部長) の五千万円脱税が発覚。国税庁による税務調査の端緒となる。

理工学部自治会 (岸田邦雄委員長) が声明を発表。

小野教授の裏口入学に絡む脱税を追究。

二月八日

東京国税局、学校法人日本大学への一斉監査に着手。本部、商学部、芸術学部、医学部、歯学部の各学部と付属高校 (日大高校、豊山高校) で監査開始。

三月二二日

国税局の監査が法学部、経済学部、文学部、理工学部、生産工学部、工学部、農獣医学部に波及。四月一五日までに全十一学部とふたつの付属高校において監査が実施された。国税局の監査は四ヶ月間、のべ四千五百名の係官を動員する調査だった。

四月五日

経済学部会計課長・富沢広が三月二二日に突然失踪し、同日、経済学部の銀行口座から七百万円が引き出されていることが発覚。失踪から一年七ヶ月後の六九年九月一七日、警視庁は全国指名手配中の富沢を都内の潜伏先で逮捕。

四月一五日

東京国税局、「使途不明金二〇億円」を公表。以後、新聞、テレビ、週刊誌で大学当局の杜撰な運営実態や理事会での派閥の暗闘、土地取得に絡む金銭スキヤンダルなどが報じられた。これら報道機関の取材で、使途不明金の累計は三四億円と伝えられる。

四月一六日

理工学部会計課徴収主任・渡辺はる子が遺書「わたしは潔白です」を遺し三月二八日に自殺していたこ

とが発覚。大学当局は「事故死」と発表。

四月一七日

日本大学学生会連合会 (住田望委員長、学連委員長) を開き、国税局問題調査特別委員会を設置。

四月一八日

日本大学教職員組合 (松山和彦委員長、古田重二良会頭) 以下全理事一六人の辞職を勧告。

四月二〇日

経済学部・短期大学部学生会 (秋田明大委員長) の「経済学部新生・移行生歓迎集会」が学部当局に拒否され、日高六郎・東大教授の講演会が禁止される。

四月二二日

農獣医学部、大森智堪学部長が「学生諸君に訴える」を配布。

四月二三日

文学部学生会 (久米奎八郎委員長)、大学当局に公開質問状を提示。

四月二四日

理事と学部長の合同会議で小野教授と呉文柄総裁が辞任。総裁・副会頭・常務理事制を廃止。

四月二五日

歯学部で学生会と教授会の協議会が開催。席上、学部当局は使途不明金を否定。

四月二六日

津田沼の生産工学部教授団、声明文を発表。

四月末

連休の期間、各学部学生会および諸団体、サークルなどの合宿や研修会で使途不明金問題が討議される。

五月上旬

秋田明大、田村正敏、矢崎薫らが市谷で会談。危惧する社研OBらの反対を押し切って、ひそかに「日本大学全学共闘会議」結成にむけた動きがはじまる。

まず、文学部部の社研を中心とする二〇名が市谷で

会議。闘争への意思統一と結束がはかられ、さらに三田魚籃坂の寺院で経済学部、法学部、文学部部の学友らが出席して決起への準備会を開き、三学部の連携を確認。

五月一六日

文学部部学術文化団体連合会 (中山正宏委員長) 第三部室の第一回合同討論会。

五月一八日

経短学生会、使途不明金糾弾の学生委員会開催を経済学部当局に申請。

五月二〇日

学文連に特別委員会が発足。使途不明金糾弾の緊急アピールを文学部で配布。

五月二一日

経短学生会の学生委員会開催申請に対して学部当局は、事実上の拒否回答。

五月二二日

経済学部当局、使途不明金に関し「大学当局を信頼する」との声明を発表。

五月二三日

経短学生会、地下ホールで学部当局への抗議と討論集会をわずかに二〇名ではじめる。体育会系学生五〇名が集会を妨害。殴る蹴るの暴力行為にも関わらず、集会には学友三〇〇名が結集し「無届」集会の実行と継続を確認。

五月二四日

経短学生会、経済学部地下ホールで四五〇名が抗議集会。法学部、文学部など他学部からも三〇名が参加。学生指導委員長室前で代表団一〇〇名が抗議の座込み。ついで抗議文を掲示。

五月二五日

その後、学外の喫茶店「白十字」などで各学年クラス委員らをふくめた討論会を行う。

五月二六日

文学部教授会、声明書を出す。

五月二三日

経済学部当局、他学部からの集会参加を阻止するため、急遽、学生証検査を強行。

経短学生会の地下ホール集會に法学部、文学部の学友ら七〇名をふくむ二〇〇名が参加。集會阻止のため動員された体育会系学生四〇名の妨害にも関わらず、集會は八〇〇名に膨れあがった。集會後、経短学生会は、他学部から駆けつけた学友を、無事、学外に送り出すため検問を突破。学外に待機していた学友らと合流。一二〇〇名が隊列を組み、校歌を歌いながら、白山通りではじめての街頭デモ。これがいわゆる「二〇〇メートルデモ」である。

この日、経済学部では「日大全学共闘会議」名のビラが配布され、新宿の喫茶店「らんぶる」で行われた極秘集會で日大全共闘執行部の人選を協議。

文学学部では特別行動委員会が結成され、各学科・クラスに行動委員会の結成を呼びかける。

五月二四日

経短学生会の抗議集會とデモはたちまち全学部に知れわたる。

この日、法学部、文学部、商学部、芸術学部、理工学部、生産工学部では、経短学生会を支持する学文連特別委員会などの「無届」ビラが配布された。

経済学部ではこの日も学生証検査を行うが、集會には八〇〇名が参加。待機していた体育会系学生七〇名が「無届け集會はやめろ」「解散」と叫びながら集會に乱入。殴る蹴るの暴行が加えられたため、学外に移動。一号館前の路上で再び抗議集會を開き、法学部から五〇〇名、文学部の三〇〇名も参加し一〇〇〇名が結集。錦華公園までデモ。公園でも抗議集會を開く。

法学部自治会学生委員総会。ならん抗議活動をしな

い執行部に批判が続出。わずか十五分で流会。執行部批判派二〇〇名は、ただちに抗議集會に変更。経短学生会の抗議行動に呼応することを確認。

五月二五日

経済学部当局、秋田明大以下一五名（経短学生会執行部一二名と学友三名）を謹慎処分。

法学部では、三号館前で八〇〇名の抗議集會。集會の最中、二階のベランダや四階の窓からバケツ二杯分の汚物を撒き散らす妨害行動に遭遇。

文学部では大講堂前に特別行動委員会が立看を出し、集會を準備。学生課職員が立看を破壊。井出治学生課長も駆けつけハンドマイクのコードを引きちぎる。集會に参加した五〇〇名は、学部当局の「解散通告」を無視して、集會を続行。体育会系学生五〇〇名が露骨な妨害行動に奔るが、大講堂前は二〇〇〇名の学友で埋めつくされた。

この日、経済学部一号館前での抗議集會には商学部からも五〇〇名が加わり、経済学部、法学部、文学部を入れると三〇〇〇名が結集。

本部前での全学集會で「日本大学全学共闘会議」の結成が提起される。

神田警察署は警察官を出動させ、三崎町周辺に六〇名を待機させる。警察官の出動は、これがはじめて。この日までに民主青年同盟（民青）の主導で民青系と中間派が「六学部自治会共闘」（法学部Ⅱ部、経商短Ⅱ部、農獣医学部、文学部、医学部、理工学部習志野）を結成。

五月二六日

大学当局、本部に学部長を集めて緊急学部長會議を開き、対応策を取りまとめる。

五月二七日

文学部では三〇〇〇名が結集して大講堂前で集會。大学および学部当局を弾劾し、文学部闘争委員会（田村正敏委員長）の結成を宣言。

法学部では三号館前で一五〇〇名の集會。法学部闘争委員会（酒井杏郎委員長）を結成。

経済学部前でも、経済学部をはじめ、法学部、文学部、商学部、芸術学部、理工学部、農獣医学部、歯学部などから五〇〇〇名の学友が結集、はじめて全学総決起集會を開催。

「日本大学全学共闘会議」の結成を承認。議長に秋田明大（経短学生会委員長）を選出する。

この時点での全共闘執行部はつぎの六名。

議長・秋田明大（経済四年） 副議長・矢崎薫（法四

年）書記長・田村正敏（文理四年）組織部長・今章（法三年）情宣部長・戸部源房（経済四年）会計部長・中山正宏（文理四年）。

のちに共同副議長・酒井杏郎（法三年）と政治局・大川正行（法四年）が就任。

五月二八日

経済学部をはじめ各学部で闘争委員会が結成される。大学当局、鈴木勝学生局担当理事を本部長に臨時総合（総合）対策本部を設置。

農獣医学部学生会総務委員会が経短学生会に連帯の決議。

全学総決起集會に経闘委、法闘委、文闘委、商学部、理工学部から六〇〇〇名結集。全共闘は、五月三十一日、文学部での大衆団交の開催を要求。全共闘の団交要求は、これがはじめて。

この日までに「日本大学学生支援全学部OB会議」などOB三団体が組織される。

五月二九日

経闘委の学部集會に一〇〇〇名結集。錦華公園までデモ。

文闘委は、新宿駅西口ではじめての街頭カンパ。

商学部では、学生集會が一〇〇〇名の結集で開かれ、学生会執行部（池田淳八委員長）との対立のなか、法闘委から一五〇〇名が駆けつけ、商学部闘争委員会（兼近秀典委員長）を結成。

農獣医学部学生会総会では、経済学部学友一五名の処分撤回と経闘委の支援を決議。さらに経済学部長宛ての抗議文を送付。

五月三〇日

文闘委、大講堂前で集會。農獣医学部へ連帯のデモ。農獣医学部では、学部当局と体育会系学生が正門を閉ざしビケットを張る。文闘委の三〇〇名は、正門前で集會を開き、農獣医学部の学友に連帯の挨拶と団交参加を呼びかける。

学連、大学当局に要求事項提示。これに対して大学当局は緊急理事會を開催。

五月三一日

大学当局は「全共闘は学則上、非合法団体である」

として団交要求を拒否。

この日、団交会場となった文理学部では、学部当局が全面休講を通告。ロックアウト状態となる。文闘委は大講堂前で決起集会。学生会の久米委員長は「全共闘の行動は学園破壊」と非難するも、学生会常任委員会議長団は「三〇〇〇名の抗議の声を無視できない」と声明。学内右翼学生集団「日本大学学生会議（寺田相生委員長）は体育会系学生八〇〇名を集めて氣勢をあげ、文闘委の集会に限り込む。再三の暴力行為で、負傷者三〇〇名。うち四名が内臓損傷、腎臓出血などで救急搬送された。

「全共闘」の旗を先頭に経闘委、法闘委、理工学部、芸術学部、農獣医学部の学友が到着し、集会はたちまち八〇〇〇名に膨れあがる。全共闘は「大衆団交は学内で実施する」との方針を掲げ、六月四日、本部前での団交要求を確認。

六月一日
田賀秀一、三上宏明ら弁護士六名が「日大闘争支援弁護団」を結成。

芸術学部正門の路上で法闘委の学友が体育会系学生に木刀で殴られ負傷。

六月二日

東京国税局、三四億円の使途不明金を大学当局の不正な経理操作による脱税と断定。記者会見で「史上最大の脱税事件」と公表。これまで「通常の税務調査」とか「税務処理上の見解の相違」としてきた大学当局の主張が全面的に崩れる。

六月三日

全共闘、はじめてタイプ印刷のビラ発行。六月四日大衆団交への結果を呼びかける。

学連、大学当局と会談し、当局の見解を聴取。

六月四日

各学部で決起集会。法闘委は法三号館前、経闘委は経一号館前、文闘委は大講堂前で集会。文闘委と商闘委の学友、理工学部の学友に連帯を呼びかける。磯川公園での「六学部自治会共闘」の集会に参加していた農獣医学部の学友六〇〇名が経済学部に着、この日の決起集会は、遠く文理学部三島校舎や郡山

の工学部からも学友が参加し、一〇〇〇〇名と最大規模の集会となった。

本部正面に経闘委、商闘委、理工、法一号館前に法闘委、文闘委、芸闘委、農獣医の学友が座込む。

全共闘代表団一四名、本部の細谷英夫学生部長と会見。六月一日の団交要求を通告。

法学部の一部学友が「全共闘は生ぬるい」として本部に突入。二階の学生部長室前で抗議集会を開く。

この本部突入事件は、全共闘にとって想定外だったが、学生大衆の怒りは全共闘に戦術転換を迫り、ストライキ突入を視野に入れた闘争方針が策定される。

この日、大学当局は靖国神社に体育会系学生一〇〇〇〇名を集めたが、組織的妨害を断念。

六月五日

医学部学生委員会、全共闘を承認。

日本大学体育会および日本大学体育連合会、全共闘を非難する抗議声明。

六月六日

全共闘は活動者会議を開き、ストライキ戦術による長期闘争の方針を確認。スト突入にむけて、全学的な討論集会を提起。

農獣医学部で抗議集会。

学連は、住田委員長を中心とする全共闘容認派と法学部、商学部、文理学部を中心とする全共闘否認派が対立。組織決定が出来ない状態に。

古田会頭、理事会を開き、六月一日の団交を拒否。

あらためて「全共闘との会談は一切せず」と言明。経済学部当局、秋田議長ら学友一五名の謹慎処分を解除。

六月七日

農獣医学部学生会（山口栄委員長）の要請を受け、大森学部長らが出席し公開説明会。学部長は一使途不明金は目下調査中」と発言。

芸術学部でも自治会中央事務局主催の公開説明会を開催。芸術学部闘争委員会（眞武善行委員長）は「闘う討論会にせよ」と学友に呼びかける。

法学部II部学生会、抗議集会。

学連、緊急委員長会議を開くも統一見解を出せず、

事実上、分裂。

六月八日

全共闘と各学部闘争委員会、活動者会議を開き戦術を検討（六月九日まで）。

六月一〇日

文闘委、六・一一にむけて行動隊を編成。経済、法学部で同時にスト突入する方針を確認。

大学当局の総合対策委員会（本部長は鈴木勝理事）が、各学部長と学生指導委員長宛に「警官導入による排除も考慮せよ」と指示。

六月十一日

日本大学学生会議、全共闘を「実力で粉砕する」と声明。

経闘委、法闘委、文闘委、商闘委、芸闘委など各学部で決起集会を開く。

経済学部では、ヘルメットを被った吉田寛学部長が、地下ホールに体育会系学生二五〇名を集めて「不逞の輩から経済学部を守れ」と訓示。

守衛が経済学部一号館正面玄関のシャッターを突然閉めはじめる。学友二〇〇名がシャッターに取りつき素手と旗竿で阻止。その時、学内に立て籠もった体育会系学生を発見、学友一五〇名が学内になだれこむ。これを見た職員は体育会系学生を指揮して、木刀を振りかざし、無防備の学友に殴る蹴るの暴行を加えた。

さらに一号館の上階から、体育会系学生はもちろん守衛までが、集会に参加し座込んだ学友をねらって、石やコーラビンなどをつぎつぎに投げ込む。一瞬、五〇〇〇名は総立ちとなったが、そこにも机、椅子、鉄製の灰皿などが見境もなく投げ落とされ、地獄絵さながらの惨状。頭蓋骨や肩甲骨を損傷した負傷者が続出する。

「やめろ！ 人殺し！」の怒号が乱れ飛ぶが、二階

のバルコニーでは、体育会系学生がこれ見よがしに日本刀（白鞘）を振りまわし威嚇。この間も放水や消火器、催涙ガス液を浴びせ、重さ一〇キロ、幅六〇センチのスチール製ごみ箱やロッカー、果ては砲丸投げの鉄球までもがデモ隊にむかって投げ落とさ

れた（砲丸投げの鉄球は証拠品として弁護団が押収）。

全共闘は態勢を直すため、一旦、本部へ抗議のデモ。ここで秋田議長はスト突入を宣言。この時、白山通りから経済学部二号館前の路上に赤白モヒカンのヘルメットが投出される。周辺の学友が急いで装着、五〇名の行動隊が編成され、つぎつぎと正面玄関から学内に突入。缶ビールが投げつけられるなか、体育会系学生の築いた手前のバリケードを突破。奥側のバリケードに取りつくが、日本刀や木刀、ゴルフクラブやチェーンなどの凶器を振りかざし、消火器を吹きつける職員と体育会系学生に阻止され、正面玄関や守衛室付近まで押しもどされる。

この間、一〇〇名ほどの学友が白山通りの窓からも一号館に突入。しかし、立て籠もった体育会系学生の暴力に抗し得ず、顔を血だらけにした学友や殴打され気絶した学友を搬送するため、撤退。

大学当局は機動隊八〇〇名の出動を要請。学友らは機動隊が加害者の体育会系学生を排除してくれるものと誤認、拍手と歓声で迎えたが、機動隊は体育会系学生の暴力行為を制止するどころか、被害者の学友たちを規制する暴挙にでる。怒りの抗議をする学友らが排除され、規制に抵抗する学友六名が検挙された。

法闘委は、法学部三号館前でスト権を確立。三号館を占拠し、バリケードを構築。

経済学部前で機動隊に規制され、分断された学友らは本部前で抗議のデモを展開。その後、法学部三号館に結集し、二〇〇名が泊まり込み態勢を取る。

この日、負傷した学友は入院四〇名、全治二週間の重傷者六〇名をふくめ二〇〇名にのぼる。この事態を鈴木勝学生局担当理事は、記者会見で「体育会の気持ちは本学の精神である」と得意気に語り、居合わせた記者団の響きをかかった。

この「暴言」を憂慮した下稲葉耕吉警視庁警備部長は「体育会を紛争解決の手段にせず、大学当局は学生と話し合い、円満に解決してほしい」ときわめて異例の談話を発表した。

六月一二日

全共闘は経済学部を奪還。経済学部闘争委員会（鳥越敏朗委員長、スト突入を宣言）。

文理学部学生会総会で授業ボイコットを決議。さらに常任委員会決議（「無届け集会禁止」）を廃案に。

六月一三日

学連の住田委員長、日本大学学生会連合会と学連中央委員会の解散を宣言。

理工学部自治会がリコール。執行部全役員の再選挙を決議。

六月一四日

文理学部学生会総会でスト権確立。しかし、ストの形態をめぐる文闘委と学生会執行部が対立、結論は翌日の延長総会に持ち越す。

文理学部教授会、理事会に事態收拾の勧告書を提出。

経済学部バリケードの学友一名負傷。

経闘委、バリケードのなかで、はじめての自主講座（三上治講師「大学の自治と学生の役割」）を開催。

六月一五日

文理学部学生会総会、無期限スト突入を決議。文闘委は文理学部一号館、二号館を占拠し、バリケードを構築。三〇〇名が籠城態勢に入る。

芸術学部教授会、要望書を提出。「事態の解決は話し合いで」を強調。

六月一六日

経済学部のバリケードに入り込み、「朝日ジャーナル」記者を装ってスパイ行為をしていた付属鶴が丘高校の保田昌平教諭を経闘委が摘発。

経闘委の学友二名に体育会系学生四名が棍棒で襲いかかり一名が重傷。病院に収容された。この間、三崎町界隈でのテロ行為が頻発。

商学部臨時学生委員会大会、ストをめぐる学生会執行部と商闘委が対立。

六月一七日

法闘委、学生大会を開催、法学部自治会をリコール。法学部教授会、理事会と全共闘の会談（予備折衝）を幹旋。

「六学部自治会共闘」が礪川公園で全学集会を開く。全共闘は「分裂策動阻止」を訴えて介入。

六月一八日

商闘委の抗議集会と学生会執行部の学生委員会が同時開催。秋田議長が出席した商闘委の抗議集会はストを決議、商学部がスト突入。

理事会、法学部教授会の幹旋を受諾し、鈴木勝理事が全共闘に六月一九日の大衆団交予備折衝を申入れる。

法学部当局、「法学部速報」のビラで「占拠した校舎から疫病発生」の虚報を流す。

芸術学部で金丸重嶺理事が公開討論会（一〇〇〇名）に臨む（司会は芸闘委）。

農獣医学部では、東季彦理事と大森智堪学部長が出席して公開討論会（一五〇〇名）。

日大学生会議、文闘委襲撃のため動員をかける。世田谷の松原公園に七五名が集結。釘のついた四メートルの角材、日本刀（白鞘）、手斧、バット、火炎ビンなどで武装。

六月一九日

黒ヘルメットの学生会議七五名が文理学部五号館裏から侵入。文闘委行動隊一〇〇名が迎撃。二号館裏で追いつめ、一名（法学部二年生）を捕虜にする。

弁護団の助言で捕虜の身柄は成城警察署に引き渡す。文闘委と文理学部学監・土屋忠雄教授に教授会との討論会（二〇〇〇名）。

芸術学部では学部当局の説明会が開催されていたが、芸闘委は説明会を中断し、スト突入を宣言。ただちに芸術学部本館を占拠しバリケードを構築。無期限ストに突入。

経闘委と法闘委の学友二〇〇〇名、本部包囲デモ。全共闘の予備折衝代表団一七名が本部会議室に出席。しかし、公文書で約束した古田会頭以下理事は誰も出席せず。全共闘は、六月二五日法学部大講堂での団交を要求。本部封鎖を望む学友の声にこたえて全共闘は本部を封鎖しバリケードを構築。

農獣医学部学生会、臨時学生総会を二〇〇〇名で開催。スト権を確立。

医学部教授会が本部機構の簡素化を要求。
歯学部当局、独自の届出制を提示。

六月二〇日

全共闘は五項目からなる闘争スローガンを採択。

①全理事総退陣 ②経理の全面公開 ③不当処分白紙撤回 ④集会の自由を認めよ ⑤検閲制度撤廃。

「六学部自治会共闘」から農獣医学部学生会が離脱。民青系が主導する「六学部自治会共闘」の破綻が明らかとなる。

新宿駅西口で街頭カンパ中の文闘委二名が右翼系学生に暴行され、棍棒で殴られた学友が入院。

六月二一日

文学部三島学生会の学友一五〇〇名、三島市内ではじめての街頭デモ。

理工学部習志野学生会（近藤隆治委員長）、学生総会で「許可制度撤廃」を決議。

六月二二日

農獣医学部は、再度、学生総会を開き、スト突入を決議。農獣医学部学生会中央闘争委員会（農中闘）を結成。ただちに本館を占拠、正門などにバリケードを構築する。

文学部三島学生会（小早川隆義委員長）、学生委員会を開催、スト権を確立。

理工学部習志野学生会、理事の退陣など三項目の要求を決議。

六月二四日

古田会頭、新東京ホテルで記者会見。「十九項目改善案」を発表。

文学部三島校舎、スト突入。バリケードを構築し、三島闘争委員会の一〇〇名が籠城。

六月二五日

全共闘は法学部一号館で団交を拒否する大学当局への全学抗議集会を開き、秋田議長は、自ら「十九項目改善案」を破り捨て、強い抗議の意思を表明。「夏休み策動粉碎」を掲げスト態勢を維持する方針が提起される。法闘委から法学部一号館の封鎖が提案され、バリケードを構築。

生産工学部闘争委員会（近藤敏男委員長）結成、は

じめて全共闘の集会に参加する。

この日、「五学部自治会共闘」（六学部だったが、農獣医学部は離脱）は、全共闘とは別に全学総決起集会と称する集会を開き、集会後、国会や文部省に請願デモ。

六月二六日

全十一学部の闘争委員会が結成。全共闘のもとで闘うことを確認。「日本大学全学共闘会議」が名実ともに確立。

法学部三号館のバリケードを警戒中の法闘委の学友が右翼暴力学生に殴打される。

六月二九日

日本大学教職員組合がはじめて決起集会とデモを行う。錦華公園に七〇〇名参加。全理事の退陣と経理の全面公開を要求。文闘委は文闘委中央委員会の名で連帯支援声明を出す。

理工学部自治会、再選挙で選任された執行部（佐久間順三委員長）を承認。スト権動議を提起。

七月一日

理工学部習志野での「理工系三学部四自治会総決起集会」に三〇〇〇名結集。全共闘から秋田議長ら代表団一〇名が出席。

医学部学生委員会 パンフレット「学園民主化の為に」を発行。

七月四日

全共闘、「夏休み策動粉碎全学総決起集会」（経済学部一号館）。全十一学部から一五〇〇〇名結集。

文闘委主催の学生大会に二〇〇〇名結集。「久米執行部弾劾決議」を採択。大会後、鈴木知太郎学部長以下、全教員出席のもとで学部団交を開催。

文学部教授会、「全理事の即時退陣」を決議。

七月五日

農中闘の学友三名が近所のガソリン・スタンド泥棒を捕縛。世田谷警察署は三名に「警視総監賞」を申請。

理工学部習志野学生会、全学スト権投票の後、七月一〇日までの時限スト突入。

理工学部自治会、学生大会でスト権確立。

七月六日

芸術学部に機動隊現れる。芸闘委の活動者会議で長時間の「投石」論争。

七月七日

文闘委、「七夕総決起集会」（五〇〇〇名）を開催。フアイアー・ストームを叩んで、古田重二良の人物に火を放つ。

古田会頭が永田菊四郎総長、鈴木勝理事らと理工学部五号館に現れたところを、全共闘が捕捉。直談判の結果、大衆団交の予備折衝を認めさせる。

七月八日

理工学部自治会、教授会との公開討論会の後、スト突入。理工学部II部、生産工学部も同時にスト突入。

七月九日

農獣医学部、学生総会で農中闘を農獣医学部闘争委員会（農闘委）に組織再編。

東京国税局は、使途不透明金に關し、所得税八億四〇〇〇万円の脱税があったとして、この日までで大学当局から重加算税と延滞税一億円を徴収したと発表。

七月一〇日

教職員組合は特別調査委員会の調査結果を公表。

七月一七日

工学部の助教授（女性）が全国紙に「なぜ講義やクラス討論を盗聴するのか。学生の掲示や立看板を、かたっぱしから焼却するのか。夏期休暇なのに、なぜ体育会系の学生に、毎日すませておくのか。姿勢を正して、民主化の理念をもっていたいただきたい」と投稿。大学の現状をきびしく批判した。

七月一八日

第一回大衆団交予備折衝。大学当局の出席者が少なく、流会。再度、七月二〇日に古田会頭以下全理事出席の予備折衝を開くことを確約。

七月二〇日

法学部一号館で全学集会開かれる。古田会頭以下全理事が出席して全共闘と大衆団交予備折衝。八月四日に法学部大講堂で大衆団交を行なうことを誓約書

で確認。

全学集会後のデモで機動隊と衝突。経闘委や芸闘委の学友二八名が不当逮捕される。

七月二二日

神田警察署へ法闘委、経闘委、農闘委、習闘委が抗議デモ、機動隊が学友六七名を逮捕。

文闘委情宣部、機関紙「変革のバトス」創刊。

七月二四日

古田会頭、全共闘に大衆団交の無期延期を通告。

七月二七日

全学部OB会議、全共闘支援の集会とデモを行なう。

八月二日

各学部で総決起集会の後、三崎町で全学総決起集会。大学当局の団交拒否に抗議し神田界限でデモ。機動隊の規制で八名検挙される。

八月七日

文理学部学生会・久米委員長が自己批判。学生自治活動の全権を文闘委に委譲。

八月四日

法学部一号館で大衆団交拒否に対する抗議集会二〇〇名結集。

八月六日

全共闘、八月二五日の大衆団交を大学当局に文書で要求。

八月二二日

文闘委、文理学部教授会と十三時間にわたる学部団交。学生指導委員長・森脇一夫教授が辞任を確約。要求を全面的に勝ち取る。

八月一七日

理工学部闘争委員会（佐久間順三委員長）、理工学部教授会と学部団交。

文理学部正門で、文闘委の学友が、近づいてきた四人組の右翼暴力学生に棍棒やビール瓶で殴られ、頭部に重傷。

八月二二日

大学当局、理工学部教授会との団交を否定。理闘委、理工学部五号館、六号館を自主管理。

八月二三日

各学部で総決起集会。

八月二四日

法学部教授会は全共闘に占拠解除を要求。「応じなければ法的手段に訴える」と文書で通知。古田会頭は全共闘に対し「全学生の正式代表と認めず、今後紛争解決のための相手とせず」と通告。

八月二五日

法学部一号館で団交拒否に抗議する全学総決起集会。中間試験ボイコットを決議。集会後のデモで機動隊と衝突、学友八名が不当逮捕。商闘委がこの集会に出かけた間隙をぬって、商学部バリケードにスト破りの学生三〇名が来襲。本館、一号館などのバリケードが破壊され、室内が荒らされた。

八月二六日

理工学部自治会・岸田前委員長が大学当局や学生会議との親密な関係を追究され自己批判。

八月三一日

大学当局、法学部と経済学部の占拠排除・立入禁止の仮処分を東京地裁に申請。

九月一日

理工学部習志野校舎で習志野闘争委員会が無期限ストに突入。

九月二日

大学当局、二十項目の改善案を発表。法学部に「学園正常化委員会」と称する学生集団が現れ「授業再開」のビラを配布。

九月三日

大学当局、九月一日からの授業開始を新聞各紙に告知。

全共闘、日大駿河台病院に現れた古田会頭を駐車場で見発。団交拒否に抗議し謝罪を要求。機動隊二〇〇名が出動、全共闘の座り込みを排除し学友三名が逮捕される。

豊島公会堂で授業再開策動に奔走する「全学再建協議会」（池田淳八議長）が八学部の右翼系学生や体育会系学生を集め「授業再開総決起集会」（三〇〇〇名）を開催。

九月四日

東京地裁の仮処分決定にもとづき日大本部、法学部、経済学部が強制代執行。バリケードが八〇〇名の機動隊によって破壊される。法闘委と経闘委の学友一三二名逮捕。

全共闘は理工学部九号館建設予定地で二〇〇〇名の全学抗議集会。集会後、法学部、経済学部を再占拠。バリケードを構築する。

郡山の工学部闘争委員会（大塚規雄委員長）、無期限スト突入。

九月五日

法学部、経済学部に、再度、機動隊が導入。バリケードが破壊される。

五〇〇〇名の全学抗議集会。白山通りで一〇〇〇〇名がデモと抗議集会。三度、法学部、経済学部を占拠。津田沼の生産工学部、校舎を占拠し、スト突入。日本大学文化団体連合会（山本高志委員長）、機動隊導入に抗議し、全理事の退陣を要求。

警視庁、第五機動隊の西条秀雄巡査部長の重体を発表。

九月六日

経済学部前で全学抗議集会。法学部、経済学部を四度目の占拠。バリケード構築。白山通りで学友五〇〇〇名がフランス・デモ。機動隊と衝突、機動隊は催涙弾、ガス銃を使用して弾圧。重傷者多数。学園闘争ではじめて催涙ガス弾が使用される。三五名検挙。

九月四日

東京地裁の仮処分決定にもとづき日大本部、法学部、経済学部が強制代執行。バリケードが八〇〇名の機動隊によって破壊される。法闘委と経闘委の学友一三二名逮捕。

全共闘は理工学部九号館建設予定地で二〇〇〇名の全学抗議集会。集会後、法学部、経済学部を再占拠。バリケードを構築する。

郡山の工学部闘争委員会（大塚規雄委員長）、無期限スト突入。

九月五日

法学部、経済学部に、再度、機動隊が導入。バリケードが破壊される。

五〇〇〇名の全学抗議集会。白山通りで一〇〇〇〇名がデモと抗議集会。三度、法学部、経済学部を占拠。津田沼の生産工学部、校舎を占拠し、スト突入。日本大学文化団体連合会（山本高志委員長）、機動隊導入に抗議し、全理事の退陣を要求。

警視庁、第五機動隊の西条秀雄巡査部長の重体を発表。

九月六日

経済学部前で全学抗議集会。法学部、経済学部を四度目の占拠。バリケード構築。白山通りで学友五〇〇〇名がフランス・デモ。機動隊と衝突、機動隊は催涙弾、ガス銃を使用して弾圧。重傷者多数。学園闘争ではじめて催涙ガス弾が使用される。三五名検挙。

大学当局、緊急理事会を開き、理事会、教職員、学生による「三者協議会」を早急に設置する方針を決める。

九月七日

理工学部九号館建設予定地で全学総決起集会とデモ。神田地区で機動隊と衝突。学友一二九名が検挙される。全共闘は「九月一二日に法学部と経済学部を完全に奪還。バリケードを構築し、もし機動隊が導入されたら、再度、徹底抗戦で闘う」との方針を決定。

九月八日

工闘委、工学部本館につき図書館を封鎖。

九月九日

理事と学部長の合同会議開催。法学部教授会は高梨公之学部長以下六名の教授辞任と理事総退陣を決議。

九月一〇日

文理学部で教授、助教授、講師の合同会議開かれる。一九九名の署名で声明書を理事会へ提出。

法学部長以下五名辞任。商学部当局も理事退陣を要求するが、理事会は理事の退陣を除く四項目の譲歩案を提示するのみ。

商学部のバリケードを鉄棒で武装した右翼暴力学生が襲撃。

九月一二日

全学総決起集会に七〇〇名が結集。集会後、白山通りのデモで機動隊と衝突。学友二名負傷。機動隊の弾圧で逮捕者は一五四名。全共闘は法学部、経済学部を奪還。バリケードを再構築し、再度、長期スト態勢を確立。

全共闘書記局、機関紙「反逆」創刊。文闘委、機関紙「文理戦線」創刊。

九月一四日

九学部の助教授、講師、助手による「教員連絡協議会」が発足。教員八〇〇名が理事総辞職をもとめて声明を発表。

医学部学生会、スト権確立。

商闘委へ鉄棒で武装した右翼暴力学生が殴り込み。

九月一六日

「文団連の集い」で永田総長が辞意を表明。

九月一九日

「法・経スト一〇〇日突破記念全学総決起集会」(法学部一号館)。九月二四日の大衆団交など十二項目を二日までの回答期限つきで大学当局に要求。

医学部闘争委員会、スト突入。

九月二〇日

歯学部闘争委員会、スト突入。全十一学部がスト態勢に入る。

九月二一日

古田会頭、全共闘に「回答書」を提示、学生自治活動、学生指導機関の改革などに関し大幅譲歩、定款

改正後の全理事退陣の意向を表明。これに対し全共闘は「文書での回答は信用できない」として九月二四日の大衆団交をあらためて要求。

日本大学学生会義、西神田公園に七〇名の学生を集め、全共闘を非難。集会後、三崎町界隈でシュプレヒコールを叫び、校歌を歌ってデモ行進。

九月二四日

「大衆団交勝利全学総決起集会」で、再び本部封鎖と九月三〇日の大衆団交要求が決議される。

工学部で教職員が封鎖解除の実力行使。授業再開を強行。

九月二七日

工闘委、駆けつけた全共闘行動隊とともに、工学部を再封鎖。授業再開を阻止する。

九月二九日

神田の新東京ホテルで開かれた理事会は、全共闘の要求する大衆団交には応じないが、事態収拾のため、九月三〇日に大学主催の「全学集会」を両国の日大講堂で開く」と通告。

仮処分強制執行のさい重傷を負った西条巡查部長が死亡。警視庁は殉職あつかいと二階級特進。神田警察署に特別捜査本部を設け、捜査を開始。

九月三〇日

全共闘は経済学部前で一〇〇〇〇名の全学総決起集会。両国の日大講堂では農獣医学部を中心とする学内右翼学生集団「日新会」など八〇〇〇名が集会を開き、大学当局の意にそった「全学集会」を画策するが、全共闘行動隊三〇〇〇名は「日新会」の学生二〇〇〇名を両国講堂から排除。学友二五〇〇〇名(最大で三五〇〇〇名とも)が集結し、十二時間にわたる大衆団交が開催される。

全共闘は冒頭で「なによりも悲しむべきことに、ひとりの人間が死んだ。それなのに、なぜ理事会は仮処分を撤回して、自らの犯罪性について自己批判しないのか」と大学当局を批難するとともに、西条巡查部長への弔意をささげる。

古田会頭をはじめ出席した理事や学部長らは九項目の要求を全面的に認め、誓約書につきつきと署名。

そのたびに歓声と紙吹雪が舞った。

この間、生産工学部のバリケードが「学園浄化促進委員会」と称する学生集団に撤去されたが、津田沼闘委は教職員のビケットを破り、構内から「浄化委員会」の学生集団を排除。本館を再び占拠した。

芸術学部も武装した右翼暴力学生五〇〇名に襲撃され、逃げ遅れた芸闘委の女子学生二名が針金で縛りあげられ、寝具などが焼かれた。さらに、柔道部の学生らとの衝突で芸闘委の学友二名が柔道部台宿所に拉致された。芸闘委・真武委員長が柔道部主将と会談した結果、二名は合宿所から解放された。

一〇月一日

佐藤栄作首相、閣議で大衆団交を重視し「政治問題として取り上げるべきだ」と異例の発言。官邸内に大学問題閣僚懇談会を設置。中曽根康弘運輸相はじめ七人の閣僚と秦野章警視總監による第一回の会合を開く。

佐藤首相は、それまで記者団に大学問題を問われても「まだ社会問題や政治問題とは思わない」と発言していたが、それが一転したのは、当時、全国の五十を越える大学で学園闘争が頻発しており、この大衆団交方式が全国の学園に波及することを恐れたためと考えられる。と同時に、古田会頭は、首相が関係している「日本会」の有力会員で、首相とも緊密な親交があり、そのことが首相をよけい奮起させたとの観測もなされた。

一〇月二日

古田会頭は緊急理事会を開き、九月三〇日の大衆団交は強要されたものだととして、一〇月三日の大衆団交を拒否。

商学部で商闘委とスト破りの右翼暴力学生が衝突。灘尾弘吉文部相も出席して大学問題閣僚懇談会第二回会合。「大衆団交のような秩序無視は許さない」との強硬意見で一致。自由民主党も党本部で臨時役員会を開き、政府の方針と同調する姿勢を示す。

一〇月三日

「闘う文団連討論集会」(法学部二二一講堂)。両国講堂で大衆団交の確約事項破壊と佐藤政権の介

入を糾弾する全学総決起集会。一〇〇〇〇名が参加。教員協が「政府の介入は、大学の自治を崩壊させる」と、佐藤首相に抗議。

一〇月四日 秋田議長以下八名に公安条例違反、公務執行妨害の容疑で、警視庁が逮捕状を請求。

一〇月五日

緊急理事・学部長会議。法、経済、理工の各学部長それぞれ教授会に辞意を表明。運営権をめぐる結論出ず、一〇月七日の評議員会にもちこす。

一〇月六日

全共闘は今後の方針を発表。①九・三〇の大衆団交は有効。大学当局は約束を完全に実行せよ。②全学大衆団交要求する。③学部別団交を要求。④全共闘執行部は逮捕されても闘い抜く、などを声明。

一〇月七日

評議員会では、理事総退陣と今後の問題で結論が出ず、全理事一致を原則として理事会に議事を差し戻す。

教職員組合が東京地検に「理事や幹部に背任横領の疑いがある」と上申書を提出。

一〇月八日

生産工学部で、津田沼共闘委員会の学友五〇名と右翼学生一五名が衝突。千葉県警機動隊と習志野警察署員ら一二〇名が出勤。

日本大学後援会（大石節会長）が授業再開の要望書を提出。

一〇月九日

理事会は「総退陣すべきである」と決議するも、時期、方法などは曖昧。記者会見に古田会頭は欠席。かわって決議を読みあげた広報担当の東季彦理事は、かねてから理事総辞職反対論の急先鋒で知られ、耳が遠いふりを装って、巧みに記者団の質問をはぐらかすなど、要領を得ない説明に終始する。

全共闘は、経済学部一号館前で全理事の即時退陣を要求する「全学総決起集会」を開き、白山通りを三〇〇〇〇名の武装デモで制圧。「神田解放区」を創り出す。

一〇月十一日

学部長会議で理事総退陣を要請。

文団連闘争委員会、文団連民主化推進委員会（芳賀一大委員長）を解散させ、文団連執行部の山本委員長を不信任。文団連は、事実上、解体。

一〇月十三日

芸闘委、「芸術学部スト貫徹一二〇日集会」を開催。

一〇月十四日

広川友雄工学部長らに使喚された右翼暴力学生集団二〇〇名が武装して、郡山の工学部に殴りこみ。構内の電源を断ち、工闘委六〇名が籠城するバリケードに火炎ビンや投げつけ放火。さらに空気銃を撃ち込むという凶行におよぶ。工闘委の学友に負傷者が続出。工闘委は消火器や消火栓で延焼を防ぐが完全には鎮火せず、消防車三十台が駆けつけ、消火作業に協力。三十五分後、ようやく鎮火した。

一〇月十五日

理闘委、「理工学部スト貫徹一〇〇日集会」を開催。工闘委、再度、工学部本館を占拠しバリケードを構築。

一〇月十六日

工学部火炎ビン放火事件で、工学部長、学監、学生指導委員長ら教授四名が引責辞任。

一〇月十七日

理工学部全サークル合同会議。

一〇月二十一日

「関東軍」（日大、拓大、国士館、東海大、専修大などの応援団や体育会の学生のほか、右翼団体「皇道会」とやぐざで構成された暴力組織）が結成される。「関東軍」を組織した飯島勇、恩慈宗武らは、一一・八芸術学部襲撃事件の主謀者として警視庁に逮捕されたが、のちにスト破り専門の警備会社を立上げ、大学当局と契約を結び体育会系学生を「警備員」として雇用。これらの「警備員」は、ロックアウトが常態となった期間、ほぼ全学部に常駐配備された。

一〇月二十五日

歯学部闘争委員会、千代田公会堂で学部団交。歯闘

委独自の方針（バリケード解除）に全共闘が介入。策謀をめぐる体育会系学生と衝突するなか流会となる。

一〇月二十八日

七学部の教授会が「日本大学教授連合」を結成。理事の総退陣などを決議。

一〇月三十一日

法闘委、「法学部サークル総決起集会」（法学部一号館）を開催。

古田会頭、九月三〇日の確約事項を破棄。「寄付行為が改正されてないので退陣しない」と、居直りを公言。

一一月二日

教員協、教職員組合、大学院連絡協議会の三者連合で「日本大学全学協議会」を結成。

一一月四日

農獣医学部で農闘委二〇〇名と授業再開策動に奔走する右翼学生二〇〇名が衝突。

一一月五日

商学部のサークル部室として使用されているプレハブ二階建て校舎で火災発生。出火場所は商闘委が占拠中の本館から離れていたが、成城消防署の消火活動のため、商闘委は正門バリケードを、一時、撤去する。翌日、成城警察署の現場検証でも構内立入を了承。

一一月八日

芸術学部をパイプ、角材、スチール製のタテなどで完全武装した「関東軍」四〇〇名が襲撃。芸闘委五〇名は四階まで追い詰められながらもバリケードを死守。法闘委、経闘委、文闘委、農闘委、理闘委などから四〇〇名の救援部隊が駆けつけると、形勢は逆転。「関東軍」の暴力学生一〇〇名ほどが捕虜となる。六時間の攻防戦で、芸闘委の学友四名が重傷を負い入院。

体育会の学生で「関東軍」襲撃事件に関与したのは、田中元和（空手部主将）、平野諒寛、古賀隆助（柔道部主将）、元吉松博（テニス部）である。

全共闘は、ただちに「全学抗議集会」（法学部一号

館」を開き、白山通りを武装デモで制圧。この隊列のなかに大日本愛国党の街頭宣伝カーが突入、デモ参加の学友が数名負傷。さらに愛国党員が手斧をふりまわして暴れたため、経闘委の学友が取り押さえた。

習闘委、理工学部一号館で「習志野総決起集会」を開催。

十一月九日

教員協、大学当局に抗議して本部前で四十八時間のハンスト。

経済学部での「三崎祭」(前夜祭は十一月八日)をはじめ、各学部闘争委員会がバリケードのなかで学園祭(通称・パリ祭)を実施。

商学部学生会、スト態勢の是非を問う全学投票を実施するが、有効投票に届かず不成立。

十一月十日

日大後援会が両国講堂で「全国父兄大会」を開催。

七〇〇〇名の父兄が出席。大会にまぎれこんでいた後援会、校友会の反動分子らの策動を粉碎。当初の目論見とは異なり、大学当局の弾劾集会となる。授業再開決議を否決。理事の退陣や告訴などを決定。

十一月十一日

前日の大会決議を実行する「全国父兄会実行委員会」を各学部から選出。

十一月十二日

十一月八日の関東軍事件の現場検証を口実に、芸術学部へ機動隊二〇〇〇名が導入。芸闘委四六名は三時間の徹底抗戦の末、全員逮捕。この弾圧は新型P型催涙ガス弾一〇〇〇発を連射するという過酷なものだった。

これに対し全共闘は、医学部構内で抗議集会を開いた後、一〇〇〇名の隊列を組み、再度、江古田の芸術学部を奪還、バリケードを再構築した。

十一月十三日

右翼暴力団と国家権力の攻撃に対する抗議集会。二〇〇〇〇名が結集し、神田地区と江古田地区を「日大解放区」とする。

十一月十四日

大学当局の手先となって授業再開を画策する法学部弁論部(上石泰史委員長)を中心とした三〇〇〇名が学生集会を両国講堂で開催。それを阻止しようとした学友一〇名が逮捕される。

十一月十五日

全共闘、全学四年生連絡協議会(館野利治議長)を開行。卒業延期・大量留年闘争を開始。

全国父兄会実行委員会(馬見塚宜男委員長)の代表ら古田会頭と会談。全理事の退陣など四項目を申し入れ。会談後、古田会頭の回答に不満をもち、背任、横領の告発を進め、会頭らの辞任を迫ると発言。

十一月十七日

秋田議長と東大共闘山本義隆代表が記者会見し、十一月二二日に「日大・東大闘争勝利全国学生総決起大会」の開催を発表。

十一月十八日

経済学部、YMCAなど都内三カ所に臨時教室を設けて、学外での集中抗議による授業再開を計画するが、講堂の貸し出しを断られ、延期。

十一月十九日

全学総決起集会で「一一・二二日大・東大闘争勝利全国学生総決起大会」への結集を提起。

十一月二十日

東大安田講堂前にて「日大・東大闘争勝利全国学生総決起大会」開催。全国から一五〇〇〇名が結集。

日大共闘は三〇〇〇名の隊列で三崎町から本郷にむかう。全共闘旗を翻しながら、夕暮れの銀杏並木を隊列が進んでいくと、安田講堂前の広場にどよめきと歓声が湧きおこった。東大共闘の学友のなかには、この光景を泣きながら見つめている者がいたという。

十一月二十四日

経済学部が四年生と短大二年生を対象に、栃木県塩原や千葉県九十九里などでの疎開授業を開始。六週間分を六時間で消化する集中講義のため、受講した学生のなかからボイコットする者も現れた。各学部の疎開授業は、全共闘の疎開授業阻止闘争の影響で、

日を追うごとに劣悪化し、教員ひとりに二〇〇名もの学生が押しつけられ、二泊三日の集中講義だけで半分の単位が与えられるほどだった。

法学部三号館バリケードの西脇にあるサークル合同部室(プレハブ二階建て)で火災発生。

十一月二十五日

警視庁、九月四日の経済学部仮処分執行に関して、殺人と傷害の容疑で学友五名を逮捕。

商学部学生会、学生大会(一〇〇〇名)を開催「早期授業再開」を決議。商闘委二〇〇名は商学部構内で授業再開阻止闘争を展開。

十一月二十七日

教職員組合、山梨県での土地取得に関して古田会頭を背任容疑で告発。十一月三日、警視庁はこの告発を受理。捜査を開始する。

十一月三十日

全共闘の要求する大衆団交に理事は出席せず、急遽抗議集会に変更。古田会頭の退陣だけではバリケードを解除しない。古田体制を完膚なきまで破壊することを宣言。

十二月三日

永田総長が全学部に「十二月一六日までに授業再開せよ」と通達。各学部教授会はそろって反撥し、学生との会話を通じて解決するとの立場を堅持。

十二月四日

経済学部が疎開授業を長野県軽井沢で再開するが、受講生から不満が続出。とうとう授業ボイコットが決議され中止になる。

十二月六日

評議員会が開かれ、五一名出席中、反対三名で寄付行為改正案を可決。全共闘との確約事項は完全に無視された。

教職員組合、寄付行為改正案に抗議。

十二月七日

右翼暴力学生と官憲が工学部のバリケード破壊。工闘委はこれを粉碎。

文理学部と理工学部の教授会は、十二月一六日の授業再開の強行に反対の声明を発表。文理学部教授会

は「便宜的な手段での疎開授業は好ましくない」と経済学部部の疎開授業を批判しながら、教授会から文闘委に学部団交を申し入れると語り、理工学部も木村秀政学部長代行が「バリケード内での授業再開など、すでに非公式な打診を続けている」と、それぞれ学部当局の自主解決を強調。

法学部一号館で教員連絡協議会、教職員組合、院生らが「総決起集会」（一五〇〇名）を開き、寄付行為改正案を弾劾。理事、監事、評議員の即時総退陣を決議。

二月八日
全共闘の「寄付行為改正案粉碎全学総決起集会」に三〇〇〇名結集。大学当局を弾劾。法闘委から二月一日に安田講堂で「日大闘争報告集会」の開催が提起される。さらに生協設立統一会議の発足を宣言。

全学協議会がデモ。理事会に団交を要求。
農獣医学部で紛争解決の執行機関として学部当局が「農獣医学部再建委員会」を設置。

二月一〇日
古田会頭、寄付行為改正案で記者会見。全理事は二月六日付で辞任するが「新理事が選出されるまで職務は遂行する」と延命をはかる。

法学部教授会、栃木県と群馬県などの系列高校で疎開授業を再開すると発表。受講生の交通費は「全額、大学が負担する」と強調。

二月一日
農闘委、学部再建委員会と第一回の協議。授業再開や機動隊の導入はしない。十日以内に再度協議することを確約させる。

右翼学生一三〇名、清水谷公園にて全共闘を誹謗する集会。日比谷までデモ行進。

二月二日
歯闘委、歯学部当局と学部団交の予備折衝。

二月五日
全共闘、東大安田講堂で「日大闘争報告集会」を開催。四〇〇〇名結集。

二月一日四日
東京地方労働委員会、大学当局に教職員組合に対する妨害行為の中止を勧告。

医闘委の学友五名が、医学部本館前で「スト解除阻止」を訴え百時間ハンスト。

二月一六日

文理学部と理工学部をのぞく各学部で疎開授業開始。文闘委、大講堂で「教授会刷新委員会」（委員長・金子義夫教授）と団交（三〇〇〇名）。授業再開をめぐり応酬がつづくが、団交は決裂。刷新委員会の教授は委員を辞任。あらたな刷新委員会（委員長・鎌田重雄教授）が発足。

二月一八日

千葉県館山での芸術学部の疎開授業を全闘委が阻止。討論会が開かれ、三日目で中止。

二月二一日

歯学部で学部団交。学部当局、これまでの学生自治弾圧を自己批判する。

生産工学部で学部団交。全共闘は、団交が成功しても、バリケードは解除しないと宣言。

二月二三日

「日大・中央大統一総決起集会」。二〇〇〇名結集。中央大学全学中央闘争委員会（全中闘）とはじめての合同集会。法学部Ⅱ部、経済学部Ⅱ部、理工学部Ⅱ部が授業再開阻止を目的とした「三学部連絡会議」結成を報告。全共闘は越年態勢の強化を提起。

集会中、右翼集団二〇〇名が工闘委を襲撃との情報伝えられ、行動隊一〇〇名が出発。

二月二四日
各学部で「メリー・バリケード」と称するクリスマス・パーティー。

農闘委、学部再建委員会と第二回の協議。二月二二日の教職員合同会場で磯辺秀俊学部長代行が四年生の授業再開を通告した件を追及。農闘委は静岡県須崎や福島県矢吹に行動隊を派遣し、疎開授業阻止闘争を展開（一月一五日まで）。

二月三〇日
各学部で越年闘争を記念する「餅つき大会」。

二月三一日
農獣医父兄会から農闘委へ差し入れ。

文闘委、田村書記長の発案でNHK紅白歌合戦に「赤組勝利」の激励電報を打つ。

一九六九年（昭四四）

一月八日

文理学部、千葉県成東で四年生に対する疎開授業を開始。文闘委行動隊は、連日、成東まで遠征し疎開授業粉碎闘争を展開。

一月九日

「日大闘争・東大闘争勝利全部学生総決起集会」。

全共闘、東大経済学部封鎖闘争を支援。
理工学部教授会、事態打開のため、教授一二名からなる「教授会行動隊」を編成。

一月一一日

経済学部教授会、入試実行委員会を開き、全国分散入試を決定。

一月一三日

医学部で、教職員、父兄、右翼学生によるスト破壊学生委員会は策動によるスト解除を決議。スト続行を基本方針とする学生会（岡進委員長）は執行部の解散を宣言。

一月一五日

東大安田講堂前で、「東大闘争勝利・全国労学共闘総決起集会」。五〇〇〇名結集。

一月一六日

両国講堂で体育会系学生を動員した生産工学部学生集会。スト解除と授業再開を決議。

一月一八日

各学部集会後、理工学部前に集結し東大安田講堂闘争支援集会を開く。明大、中大などの学友とともに神田・御茶の水カルチャーセンター解放区闘争を闘い、順天堂病院から東大構内への進攻をはかる。

全共闘情報班が警察無線を傍受。安田講堂を攻撃する機動隊が催涙弾を使い果たし、練馬の陸上自衛隊に催涙弾の供与を要請する緊急電を解読したが、なぜか全共闘行動隊への伝達と東大構内への突入を阻

止される。

一月一九日

全共闘が全国の自治会や闘争委員会宛に打電した「上京要請」の電報を握りしめ、夜行列車を乗り継いできた地方の学友らも、続々と理工学部一号館に到着。前日に引き続き、東大闘争支援で神田・お茶の水周辺を占拠、街頭バリケードを構築し、カルチエラタン解放区闘争を展開。一七時五九分、機動隊員が安田講堂屋上の赤旗を取り外す。安田講堂陥落。

一月二〇日

理闘委の行動隊員が安田講堂の屋上に駆けあがり「日大全共闘」の黒旗を掲げ、三十五時間の攻防戦を闘い抜いた敢闘精神を讃える。

一月二五日

歯学部、動員された右翼学生らが歯学部学生集会（五〇〇名）を開催。スト解除決議を採決。

一月二六日

警視庁、神田解放区闘争の捜査を名目に理工学部一号館、明大、中大の学館を強制捜査。

一月二七日

生産工学部で全学科集会。教職員三〇名と学生三〇〇名が大塚誠之学部長の提案を丸ごと承認。授業再開策動に加担する学生らは「民主化推進委員会」を設置。機動隊五〇〇名が待機するなか、教職員らがバリケードを解除。

歯闘委、学生集会（五〇〇名）を開催。二五日の集会是学部外からの学生が動員され、また、採決にも不正があったとして、スト解除決議の無効を宣言。スト続行を決議。

一月二九日

生産工学部の授業再開阻止闘争。再封鎖をめぐって自治会暫定執行部（森広人委員長）と称する右翼暴力学生集団一〇〇名と衝突。津田沼闘争の学友三九名が捕えられ、殴打される。大塚学部長が自ら、ひとりずつ顔写真を撮影した後、構内に機動隊を導入し、全員を引き渡す。

農闘委、再建委員会と学部団交。

一月三〇日

商学部集会が世田谷体育館で開かれ、学部当局が一方的に「バリケード撤去・授業再開」を宣言し、閉会となる。

農獣医学部再建委員会、「学部提案」の起草委員を選出。

二月一日

日大闘争救援会準備会主催の「東大・日大闘争勝利二・一報告集会」（一〇〇〇名）が全電通会館で開催。井上清・京大教授、評論家の松岡洋子、樺光子（樺美智子の母）らが激励。

農獣医学部学生統一代表団が結成。農闘委の学友が一〇学科中九学科で選出される。

大学当局、教職員組合の松山委員長ら三幹部を解雇。

二月二日

法学部、経済学部にも機動隊導入。バリケードが撤去され、大学当局、校舎をロックアウト。

工学部では、自らヘルメットを被った野引勇学部長が陣頭指揮のもと、五〇〇名の職員や体育系学生のほか、職業右翼、暴力団までを動員してバリケードを撤去。これに徹底抵抗した工闘委の学友一二名はリンチされ、全員が重傷を負った。

この光景を目撃した学生大衆は「自主解除」にはげしく反撥し、学部当局者の乗ったマイクロバスに殺到し、窓や屋根をたたき、そばにあったガソリン缶に火を放って抗議した。

農獣医学部再建委員会、無条件スト解除派「学科連合」の学生と会談。

二月三日

前日に続き神田・お茶の水で法・経奪還闘争（二月五日まで）。

歯闘委、歯学部学生大会で「スト解除。バリケード撤去」を決議。バリケード闘争から日常闘争へ戦術を転換。闘争委員会がスト解除とバリケード解除を決議したのは、はじめて。

二月六日

文理学部集会（三〇〇〇名）で教授会が授業再開を提案。学部当局に動員された三〇〇〇名が賛成したが、

反対の採決をとらずに「授業再開」を宣言したため、これに抗議して学友二〇〇〇名がデモ。文闘委は大講堂で教授会弾劾集会を開催。

商学部、再度の学部集会でストの解除と授業再開を決議。機動隊三〇〇名に守られながら、教職員、体育会系学生らがバリケードを撤去。

二月七日

歯学部のバリケード解除を実力行使した右翼集団一五〇名と全共闘行動隊五〇〇名が衝突。官憲の弾圧で行動隊が排除される。

目黒福祉センターで農獣医学部が公開予備折衝。農闘委は学生集会に切り替え、圧倒的多数でスト続行を決議。

二月八日

全学総決起集会が中大構内で開かれ、理工学部九号館までデモ。

農獣医学部の公開予備折衝中、学部当局と付属鶴が丘高校の教職員の一部がバリケードを破壊。農闘委は抗議集会の後、ただちにバリケードを修復し補強する。

大学当局は、これまで商学部、医学部、工学部、生産工学部において右翼系学生を動員して「学部集会」なるもの開催。手に負えなくなると官憲を導入しては教職員を守らせ、あたかも「自主的なスト解除」であるかのように振舞ってきたが、この日になって「これ以上、バリケードの自主解除は不可能」と判断。警視庁に機動隊の出動を要請。事態の收拾を全面的に委ねた。

二月九日

理工学部、芸術学部にも機動隊導入。バリケード撤去。農闘委にバリケードからの「退去命令」が勧告。

二月一〇日

農獣医学部に機動隊導入。バリケード撤去。農闘委は学外に撤退。

二月一日

全共闘、中大中庭で「日大闘争勝利労学市民五万人集会」を開く。二〇〇〇〇名結集。歴史学者の羽仁五郎らが激励。

両国講堂において農獣医学部入学試験が機動隊の警戒態勢のなか実施。

二月一二日

商学部、授業再開を強行。

二月一六日

芸闘委、芸術学部奪還闘争。武蔵大学構内で決起集会の後、芸術学部へデモ。さらに千川通りなど、江古田近辺で街頭バリケードを構築。

二月一七日

大学当局、日本本部の封鎖を實力行使で解除。

二月一八日

文理学部に機動隊導入。文闘委の学友らを構内から排除。全学バリケード・スト連続二五三日間の記録に、一旦、終止符が打たれる。

全学生・全学教授会との総団交が拒否され、学友は「日大闘争勝利報告集会」に結集。

千代田公会堂で「日大闘争救援会」が発足。

二月一九日

文闘委、文理学部奪還闘争。明和泉校舎から七〇〇名が出撃。文理学部構内でデモと集会。

二月二〇日

理工学部習志野、バリケード撤去。

二月二二日

理工系三学部四闘争委員会、「理工系総決起集会」を開く。

二月二四日

文闘委、文理学部奪還闘争。

二月二五日

理工系三学部四闘争委員会、「理工学部教授会団交勝利集会」開催。

二月二六日

法闘委、芸闘委、活動者会議や学科集会を招集。

二月二七日

経闘委、討論集会の後、経済学部二号館前で全体集会。

三月一日

全共闘行動隊二五〇名が上洛。京大時計台前の「三・一京大入試粉碎全国労学総決起集会」に駆け

つける。集会後、東一条から百万遍にかけて展開された解放区闘争を闘う（京大入試阻止闘争の支援は三月三日まで）。

芸闘委、全体集会。

理工学部習志野で、学部当局、授業再開のガイダンスを実施。

三月二日

千葉県教育会館で全共闘主催の「日大闘争勝利・千葉県報告集会」。一〇〇〇名参加。

三月三日

文闘委、授業再開に関し文理学部教授会と団交。

法闘委と経闘委、法・経奪還闘争。

三月四日

ホテル・オークラで開催予定の「古田重二良を励ます会」（主催は日本会）が中止。

全共闘と日大闘争救援会は「日大闘争勝利労学総決起集会」（清水谷公園）を開き、「励ます会」をきびしく糾弾。

三月五日

生産工学部統計学科が廃止される。

三月六日

文闘委、文理学部団交。学友二〇〇〇名が文理学部構内でデモ。

三月六日

両国講堂で経済学部提案集会。右翼暴力学生二〇〇名が経闘委の学友に椅子を投げつけ暴行。流血となる。その後、抗議集会と経済学部奪還闘争を展開。

三月七日

文闘委、文理学部四研究室を封鎖。

三島闘争委員会、三島公会堂で「日大闘争報告集会」。一五〇〇名参加。

三月八日

文闘委、三〇〇〇名を結集して文理学部団交。文理学部一号館を再封鎖。

芸闘委、立教大学で「日大闘争勝利芸術学部報告大会」。五〇〇〇名結集。

工闘委、郡山で「東北日大闘争報告集会」。

三月一〇日

文闘委、三〇〇〇名を結集し文理学部を奪還。本館

を封鎖し、バリケードを再構築。四月三日まで二十五日間にわたって占拠・籠城態勢を維持。

理闘委も三〇〇〇名で理工学部一号館を再封鎖。

三月一日

法学部提案集会。

三月二日

秋田議長、春雪の朝、潜伏中の渋谷区内で逮捕。

三月三日

大学当局、古田会頭を批判してきた生産工学部統計学科教官七名に辞職勧告。

三月四日

全共闘、理工学部一号館前に三〇〇〇名を結集し法・経奪還闘争を展開。

三月一八日

理闘委、理工学部団交。

「日本大学教員共闘委員会」（教員共闘）が発足。

両国公会堂で「教学弾圧抗議集会」を開催。

三月一九日

大学当局、全学入学式を中止。学部別に行なうと決定。

農獣医学部の教職員合同会議で磯辺学部長代行、再建委員会と学生代表団が主張する話し合い解決策をとる意思がないと表明。

三月二三日

教員共闘、機関紙「戦慄」を創刊。

三月二三日

法・経奪還全学総決起集会。一〇〇〇名結集。理工学部を再度バリケード封鎖。

三月二五日

秋田議長、獄中から「日大全共闘は不滅である」とアピール。

全共闘主催の「闘争勝利新人生歓迎集会」（法政大学五一講堂）に五〇〇〇名結集。法学部、経済学部への武装デモで四名逮捕。

小林忠太郎講師ら教官四名が編纂した「事実と考察」を農闘委が構内で配布。

四月二日

文理学部教授会は大衆団交には応じないと表明。封鎖解除など強硬な弾圧策に転換。

四月三日

文理学部にて機動隊が再導入。学部当局、構内をロックアウト。

四月五日

理闘委、理工学部教授会と団交。

四月七日

全共闘と文闘委が明大和泉校舎で全学総決起集会。

一五〇〇名結集。「全学再バリ封鎖・文理学部機動隊導入抗議」を宣言した後、甲州街道をデモ行進。

文理学部正門で抗議集会を開く。

理闘委、理工学部習志野校舎で「新入生交歓会」。

四月一二日

全共闘、法・経奪還闘争。明大学館前にて二〇〇〇名結集。お茶の水周辺を解放区に。機動隊が明大学館に乱入し、一二八名を無差別逮捕。うち日大の学友は九三名。この弾圧がきっかけとなって明治大学全学共闘会議の六九年明大闘争がはじまる。

四月一三日

教員協が「全学シンポジウム」を開催。教員共闘は教員協の欺瞞的な活動を糾弾。

四月一四日

津田沼闘委と習闘委五〇〇名が生産工学部で「進級試験粉碎闘争」。生産工学部の助手に指揮された体育会系学生が暴力行為におよぶと、一〇〇〇名に膨れあがった学友らが構内に突入。学内での抗議行動を展開。

四月一五日

明大学館で「安保・沖繩大討論会」を法闘委、経闘委、理闘委、商闘委が合同開催。

四月一六日

理工学部習志野校舎で学部当局が学内立入禁止者の氏名を公表。

四月一七日

理工学部習志野校舎で授業再開。

四月一八日

東京地裁で法闘委、芸闘委、農闘委の学友らによる法廷闘争が開始。五月一三日まで断続的に展開。

四月二二日

全共闘編集局、機関紙「闘う全共闘」創刊。

四月二九日

郡山の工学部で入学式。

五月六日

理工学部で授業再開。

五月七日

法学部大宮校舎で入学式。

五月一三日

文理学部、「にわとり小屋」と悪評されたプレハブ建ての府中校舎で入学式。

五月一六日

医学連・青医連全国統一行動に医闘委が参加。主催団体から医闘委へ一万二千元のカンパ。

五月一七日

教員共闘「労学連帯集会」を開催。

五月二一日

明大記念館の「日大闘争一周年全学総決起集会」に二〇〇〇名結集。理工学部一号館を封鎖。

五月二三日

「大学治安立法粉碎・日大闘争一周年全部学生総決起集会」に三〇〇〇名結集。

五月二九日

文京公会堂で教員共闘が東大全学助手共闘会議と「大学を告発する報告討論集会」を共同開催。全国五十の大学から「造反教師」と呼ばれる教員二〇〇〇名が出席。

六月二日

文理学部授業粉碎・学園奪還闘争。文理学部で受講していた学友らが教員に質問したところ、いきなり警備員に殴打され、学友五名が負傷。

六月四日

文理学部府中校舎のなかで討論会を開こうとした新入生に体育会系学生が暴行。この事件で、翌日、抗議集会が開かれたが、警備員が駆けつけ暴力をふるって集会を破壊。六月一七日にも、警備員が新入生を暴行するなど、学内での弾圧は異常なほど強化されていった。

六月一一日

「日大闘争バリスト一周年記念総決起集会」に二〇〇〇名結集。四六名逮捕される。

六月二三日

農闘委の「農獣医学部バリスト一周年記念集会」に対し、学部当局、ロックアウトで対抗。

六月二六日

全電通会館の「大学立法粉碎全部理工総決起集会」に理工系闘争委員会の学友が結集。

七月二日

農闘委の「団交拒否抗議集会」に二〇〇〇名結集。農獣医学部本館を封鎖。芸闘委行動隊も駆けつけ、バリケードを再構築。

七月三日

農獣医学部の右翼暴力学生ら火炎ビンでバリケードを襲撃。機動隊導入で封鎖解除。

七月八日

理闘委、理工学部七号館ロビーで「理工学部大学立法粉碎総決起集会」を開く。

七月九日

千葉地裁で、「一・二九授業再開阻止・津田沼奪還闘争」の際、建造物不法侵入と暴力行為で起訴された学友一〇名の公判が開始される。

七月二一日

農獣医学部、構内の周囲を鉄板で覆い有刺鉄線を張りめぐらしたうえ、きびしい検問態勢を敷き、授業再開を強行。構内では学部当局に雇われた警備員や体育会系学生、応援団が学生の動向を監視。各学部でも同様の措置がとられ、その実態がナチスの強制収容所に似通っていることから「アウシュビッツ体制」と呼ばれた。

八月一三日

日大闘争救援会、文理学部包囲デモ。構内での座り込み集会を決行。

八月二八日

古田会頭、不起訴と決定。

八月二九日
医闘委、総長選の会場に乱入。実力粉碎闘争でスト続行を訴える。

九月三日

医学部学生大会で無期限スト宣言。

九月四日

「法・経仮処分一周年弾劾集会」に二〇〇〇名結集。
九月再封鎖闘争にむけ意思一致。

九月五日

日比谷野外音楽堂で「全国全共闘連合結成大会」。
全国四十六大学から一〇五五〇名が結集。全国全共闘議長に東大全共闘の山本義隆代表、副議長に拘留中の秋田明大議長が選出される。大会後、警視庁は山本議長を逮捕。

九月八日

医学部学生大会で無期限スト決議。医闘委四〇〇名で、学部当局のロックアウトを粉砕。

九月十一日

全共闘、法学部の封鎖と経済学部長室を占拠。

九月一〇日

理事会、古田重二郎を日本大学会長に選出。古田の居直り支配体制確立。

九月一二日

全共闘、「古田新支配体制打倒全学総決起集会」(明大記念館)を開催。

九月一三日

全共闘と文闘委、「日大文理学部アウシユビツ体制粉砕」の抗議デモ。

九月一八日

医学部学生会、医学連第十六回定期大会へ正式参加。

九月二〇日

医闘委、教養部校舎を占拠。

九月二二日

理工学部建築学科闘争委員会、理工学部自治会室奪還の決起集会。

九月二二日

医闘委、医学部教授会に乱入。学部当局と団交。本館二階をバリケード封鎖。

九月二二日

「古田新体制打倒全学総決起集会」に二〇〇〇名結集。

九月二五日

法学部三号館前で集会。法学部一号館を一時封鎖。

九月二六日

理闘委、「ロックアウト粉砕理工総決起集会」(理工学部七号館)。

九月二七日

理闘委、理工学部一号館で「理工学部総決起集会」を開く。

九月三〇日

「全都全共闘・日大奪還闘争」。医闘委も「五人組」編成で参加。お茶の水周辺で解放区闘争を展開。全共闘は田村正敏書記長をふくめ学友三五五名が逮捕される。

一〇月一日

医学部で第一回団交予備折衝。

一〇月一八日

官憲による医学部包囲。

一〇月一九日

医学部当局、官憲を導入してロックアウト。

一〇月二二日

工学部当局、加藤教授を懲戒免職処分。この間、大当局は、現状に批判的な言動の教員(教授・助教・講師・助手・副手)らをつぎつぎと処分。それぞれに解雇、減俸、期末手当の減額、強制配置転換などの措置をとった。教員共闘は、七月一〇日現在、全学で二七名が不当に処分されていると主張。

一〇月二三日

医闘委のヘルメット部隊八〇名が医学部奪還闘争。ガードマン・右翼・官憲を粉砕。

一〇月三〇日

理工学部II部クラス連合、「学園民主化討論集会」(理工学部一四五講堂)。

一一月二日

医闘委、学部当局主催の医学部集会(両国講堂)を完全粉砕。

一一月四日

医学部学生会委員会三五〇名で授業再開に抗議。

一一月五日

医学部で八名逮捕。一〇月二三日の奪還闘争に関つた医闘委一八名に逮捕状。

一一月七日

医学部で授業再開を強行。連日、右翼とのゲバルト闘争(一一月一日まで)。

一一月一三日

医学部精神科医局、スト権確立。

一一月一四日

理事会、大学当局に批判的だとして「日本大学新聞」の休刊を決定。

一一月一五日

日大闘争救援会が「日大新支配体制弾劾市民集会」(礪川公園)を開催。二〇〇〇名結集。

一一月一七日

医闘委の学友一八名が逮捕。

一一月一九日

全共闘、「日大神田地区討論集会」(全電通会館)を開催。

一一月二一日

警視庁捜査二課、経済学部・富沢会計課長の横領が二億七〇〇〇万円と発表。その大半は二四名の大学関係者や友人に流れていた。

一一月二二日

医学部、二七名の学友を処分。

一一月二三日

医学部本館前で処分撤回の抗議集会。一〇〇名結集。

一一月二五日

日大闘争救援会、「反戦と反権力の国家と映画の集い」(全電通会館)を開く。

一一月八日

「一一・一五不当弾圧抗議集会」。

一一月一〇日

古田会長を告発した教職員九名にボーナスが支給されず、東京法務局に人権擁護の訴え。

一一月一一日

農獣医学部教授会、小林講師に「退職勧告」。拒否すれば「懲戒免職」と脅す。

一一月一六日

理事会、小林講師の「懲戒免職」を決定。

二月一九日
理闘委、理工学部七号館で「理工学部総決起集会」。
二月二六日
全共闘と弁護団、秋田明大議長の保釈を勝ちとる。
一九七〇年（昭四五）
一月三日
法闘委、経闘委、理闘委が「日大神田地区大政治集会」（全電通会館）を合同開催。
一月一七日
理闘委が理工学部七号館で「理工学部総決起集会」。
全共闘、「日大全学総決起集会」（法政大）。
一月二九日
全共闘、「日大全学活動者討論集会」（法政大）。
二月一日
日大闘争救援会が「反戦と反権力の為の状況報告と映画集会」（四谷公会堂）。
二月一五日
大学当局、「日大新聞・廃刊号」（二〇〇〇部）を没収、焼却処分。この措置に抗議して日本大学新聞社の学生社員は全員退社し「日本大学新聞会」を結成。六月一五日、「日本大学学生新聞」を発行。
二月二一日
全共闘、東大本郷構内で「日大全共闘拡大討論集会」。
二月二五日
武蔵野台駅付近で文闘委を中心とした全共闘行動隊三〇名がピラ配布の情宣活動中、右翼暴力学生集団に襲撃され、商闘委の学友・中村克己が重傷を負う。奥島病院で緊急手術。右翼に襲われた学友三〇名が府中警察署に逮捕される。
三月二日
入院加療中の中村克己が永眠。
全共闘は、ただちに「中村君虐殺抗議集会」（錦華公園）を開催。
三月三日
全共闘、「中村君虐殺行為弾劾文理学部包囲デモ」の抗議行動を展開。

三月四日
全共闘、礪川公園で「中村同志虐殺抗議労学市民集会」を開催。
全共闘と農闘委、四谷公会堂で「小林講師処分撤回総決起集会」を開く。
三月七日
全電通会館で「七〇年度新入生・卒業生討論集会」。
三月一一日
日比谷公会堂で「中村君虐殺弾劾・日大全共闘葬」が営まれる。
三月一四日
府中駅前で「中村君虐殺・日大全共闘献花行進」。
三月一五日
全共闘、武蔵野台駅で「中村君虐殺抗議労働者市民学生献花行進」。
三月二五日
文闘委、「虐殺・処分・ロックアウト粉砕」の文理学部包囲デモ。
三月二七日
東京地裁で小林講師の不当解雇処分撤回の公判が開始。
三月二八日
農闘委、討論集会と農獣医学部包囲デモ。
四月一三日
全共闘、礪川公園で「中村君虐殺抗議・日大アウシユビッツ体制粉砕労働者・学生・市民統一行動」の集会を開催。
四月二六日
理闘委、文京区民センターで「新入生・移行生歓迎討論集会」を開催。
五月一四日
理工学部一号館・七号館前で理闘委がデモ。
五月二〇日
理工学部II部闘争委員会が「理工学部II部学内討論集会」を開催。
五月二二日
理闘委、法政大六角校舎で活動者会議。

五月二三日
理闘委行動隊、理工学部六号館前に結集し、一号館内で「理工学部総決起集会」を開く。
全共闘、商学部構内で「新入生・移行生歓迎集会」を開催。
六月一〇日
理闘委と理工学部II部闘委が「理工学部総決起集会」と「学内総決起集会」を時間差で開催（六月一九日も同様の集会を敢行）。
六月一一日
全共闘、礪川公園で「日大闘争勝利・六月決戦勝利総決起集会」を開催。
安保廃棄全日大六・二三実行委員会が日比谷野首で「全日大総決起集会」を開く。
六月一三日
全共闘とベトナムに平和を市民連合（ベ平連）が礪川公園で「六月安保闘争勝利・全国アウシユビッツ粉砕集会」を共同開催。
六月二三日
医学部から四〇名、看護学院から三〇名が結集。医療研、文研による活動者の再結集が進む。医学部では、一二月に処分された学友二七名が全員復学し、医学部活動者会議が再建され、五月には一闘委・三闘委がクラス委員選挙で勝利。医闘委の再組織化ははかられていた。
全都看学共闘が単独で集会を開催。この集会に日大からも看学三九名がはじめて参加。看学共闘二〇〇名とともに明治公園から日比谷公園までデモ。後日、看学当局は三九名の父兄を呼び出し「事情聴取」呼び出しに応じなければ「処分する」と威圧した。
六月一六日
全共闘経済一年生藤沢活動者会議が藤沢市民会館で「藤沢地区映画・討論集会」を開催。
六月二九日
理工学部、木村秀政学部長代行との理工学部大衆団交。
七月八日
全共闘、法政大学講堂で「日大全共闘討論集会」を

開催。

九月二日

看学卒業論文ポイコット闘争。

九月二六日

看学自治会主催の高橋昶正・東大講師の講演会に三

〇名の医局員、講師、警備員がビケットで阻止行動。

一〇月六日

看学当局、看学の学友七名を停学処分。

一〇月二六日

古田重二良、大駿河台病院にて死去。大学当局は

「古田会長の社会的評価には、いまだ歪められた面

が残っているのは残念だが、今後の歴史のなかで古

田会長の業績と隠された人間性は、時とともに再評

価されることを確信する」との談話を発表。

一〇月三〇日

歯学部当局、「桜齒祭」の期間中（三一日から一一

月三日まで）、ロックアウトを告示。

十一月七日

医学連第十七回定期大会に医学部学生会が代議員参

加。

十一月五日

文理学部フラクション（一〇〇名）、下高井戸でビ

ラ配布。

十一月二日

学園協議会と理想的大学像建設委員会、後楽園ホテ

ルで講演会を開催。

農獣医学部当局、「三茶祭」の中止を通告。

十一月二四日

経済学部U部自治会設立準備委員会、学部当局に五

項目の要求書を提示。

十二月一日

経済学部で再び検問を開始。この時期、検問態勢を

強行しているのは経済学部のほか、法学部、芸術学

部、文理学部、農獣医学部。

十二月二日

経済学部、「三崎祭」実行委員会に対し、学部当局、

開催費用の不払いを通告。

十二月四日

法学部、「部室・部費獲得闘争」で学内集会を開き、

四〇〇名結集。

十二月七日

農獣医で「日新会」の学生によるテロ行為。

十二月一〇日

習闘委、理工学部習志野で学内集会（五〇名）。駅

までデモ行進中、鉄パイプで武装した右翼暴力集団

三〇〇名に襲撃され、学友一名が拉致。全身打撲の重

傷。

十二月二日

理工学部習志野で「一二・一二弾圧粉砕集会」開催。

理工系闘委の学友ら一〇〇名結集。

十二月三日

看学当局、京浜安保共闘系学友に退学処分。

日大闘争支援弁護団と日大闘争救援会の調査による犠牲者は、逮捕者一六〇八名（勾留五九五名、起訴一三二名）、死亡者一名、負傷者七七一六名（重傷七一三名、失明三名）である。（文中敬称略）

参考資料

- ①「叛逆のバリケード」（日本大学文理学部闘争委員会書記局編）
- ②「増補・叛逆のバリケード」（文闘委書記局編・三一書房）
- ③「バリケードに賭けた青春」（日本大学全学共闘会議編）
- ④「大学占拠の思想」（秋田明大編）
- ⑤「獄中記」（秋田明大著）
- ⑥「造反潜行記」（田村正敏著）
- ⑦「一六〇八名の逮捕者」（田賀秀一著）
- ⑧「バリケードを吹きぬけた風」（橋本克彦著）
- ⑨「日大紛争の真相」（日本大学新聞研究会編）
- ⑩「されど我ら闘う」（「文理時報」新聞会編）
- ⑪「全共闘機関紙合同縮刷版」（全共闘機関紙合同縮刷版編集委員会編）
- ⑫「日本大学新聞」（日本大学新聞社）
- ⑬「文理時報」（日本大学文理学部学生会編集局）
- ⑭「若きエンジニア」（日本大学理工学部学生自治会）
- ⑮朝日新聞・毎日新聞・読売新聞